

公聴会 生駒泰成公述メモ 2025.9.6

■生駒

相良村から来ました生駒と申します。

まず私がこれから述べるのは、「川辺川流水型ダムに関する環境影響評価準備レポートのあらまし」があります。これは九州地方整備局が出している資料ですが、主にこれに基づいて質問を申し上げたいと思います。

まず開いた 3 ページ目「事業の目的」、「球磨川流域における洪水被害の防止低減を目的としています」と書いてあるんですけど、今回はこの流水型ダムは令和 2 年の洪水をきっかけにまた再度計画されたものだと思っておりますが、この事業目的でこの下に「流水型ダム地点の流量を 500 m³まで抑えることで、河道洪水調整施設による洪水調整と合わせて人吉地点のピーク流量を球磨川水系河川整備基本方針の稼働への配分流量 4000 トン以下にすることができます」と書いてあるんですけど、その下にグラフが 2 つございます。

その中でダムがあった場合、なかった場合、この人吉地点の流量が書いてあるんですけど、今回のこのダム、令和 2 年の水害をきっかけに新たに計画されたものです。けど、この資料に載っている「このダムがあれば軽減できますよ」というグラフは、昭和 47 年 7 月洪水の雨の降り方を用いられています。非常におかしい話だと私は思っております。

私質問の用紙で、この流水型ダムできれば濁りの長期化は必ずする、そのように書いてあるんですけど、逆に言えばもう清流の日数が短くなるということですね。じゃあちょっと質問します。

「清流の日数が短くならない」そのように思われますか。

■国交省

清流の定義は人それぞれというところがあるのでなかなか難しいところですが、SS 成分、環境影響評価にある SS 成分に関して言えばですね、ダムの有無によって、ダムで調節することによって変わる日数がおおむね 1 日ですので、大きくは変わらないというふうに考えております。

■生駒

熊谷さん、「本当に清流の日数は短くならない」と。個人的にはどんな思われますか？

■国交省

個人というのがですね。この場では起業者として出席させていただいておりますので、お

答えできません。

■生駒

それではですね、先ほどから言うと何にも言われてあったんですけど、透明度が 26cm 以上だったら清流だということに基づいて、1年間に1日程度しか濁りは増えることはない。そういう意味でおっしゃってよろしいですね。そういうふうに思いました。

■国交省

今この環境影響評価においてお示ししているのは、透視度が 26 センチかどうかというのはあれですけども、SS25mg/L が変わるのが 1日しか変わらないということです。

■生駒

SS25mg/L 以上の日が変わらないということですか。以下が変わらないということですか。

■国交省

SS25mg/L 以上になるのが、ダム建設前と建設後ではほとんど変わらないということです。

■生駒

25cm 以上の濁りの日が変わらない、それはそうですね。

これはですねこのレポートの 13 ページ目、これは試験湛水の時のレポートなんですけど、この図が 3つ示されていて、この一番下のやつですね、一番下の右前です。

「表層取水プラス濁水の一時貯水(?)」と書いてあるんですけど、その下に、「SS 成分の巻き上がりが顕著に想定される場合、表層取水等による放流、堆積した土質成分はその後の出水に合わせて河床部放流設備より放流、出水が発生しない場合は堆積した濁質を除去する」とこう書いてあるんですけど、これは試験湛水の時のシミュレーションですけど、洪水の時も同じような現象が起こりますね。水を貯留するための施設ですから、洪水のときも当然水は溜まりますね。溜まるための施設ですから。そこからこの試験湛水で示してあることと同じ現象が起きる。そういうのを私は思うんですけど、この今先ほど私が申し上げた「SS 成分の巻き上げが顕著に想定される」と書いてあるんですけど、その下に「堆積した土質成分はその後の出水に合わせて、河床部放流施設より放流」と書いてあります。ということは水が減ってからでないと底部の泥は流れません。流しません。そういう話ですね。

そうしたら、一度貯留したダムの底には当然土質が残りますよね。それを水が減ってから流すという話です。

これは、絶対に濁水が長くなると思いますよ。どんなですか。

■国交省

通常、これまでも我々が観測している結果から言って、実際の**はですね。大体1日、長くて3日ぐらいで終わっているということです、それがダムがあってもなくてもそこは大きく変わらないということなので、結果として変わらないという**であると思えます。

■生駒

いや、私が言っているのは、一度ダムで水を貯める。1日でも2日でも3日でも50日でもおそらく一緒の話ですけど、一度止めれば必ずそこに土質成分が貯まりります。水が減っていく水が減ってから下の土質が流れ出す。

私はそう思うんですけどどう思いますか？

■国交省

これも先ほどあったかと思いますが、洪水調整池の中の平らなところですね、道路とか**とかという話もありましたけども、そういったところに一時的に溜まったような時には、そういったものをそもそも貯まりにくくするために舗装に工夫を加えて流れやすくしたりとか、そういったことをやっていくということで考えているところです。

■生駒

私が言っているのは、ダム堤、河川内の河川の、水の中の川底のことを言っているんです。道路のことを言っているんじゃないんですよ。川底を舗装するんですか？今の話でそうなんですよ。

■国交省

川底に仮に貯まることのあるとしても、貯まらないような工夫をするんですけども、水勢工とか、それでも貯まることのあるとしても貯まらないように維持管理していくということでございます。

■生駒

もし貯まればと言ってるんですが、貯まるんですよ。

先ほどから砂防ダムの話とか出てくるんですけど、構造的基本的な形の部分は砂防ダムの朴木、樅木、あれと一緒にですね。水を一旦貯めてそこから流す。それで濁りは発生することはないと先ほどから言われてますけど。

そしたらですね、2005年か2004年に朴木ダムがものすごい濁りの長期化を発生させました。ダム堤の上に8mくらい泥が溜まって、それがちょっとの夕立が来たら、夕立がなくてもどんどん流れて、1年中球磨川を濁らせたんですよ。

あの時、地元の相良、人吉の議会とかマスコミ報道も漁業関係者、みんなで大変大騒ぎしたです。非常に色々なマスコミ新聞等で取り上げられてたんですけど、その後あなたたちは濁りを止めるために何をしましたか？それは知らないでしょう。

あなたたちはですね、新たな工事を発注して、ダム堤の上にケーブルプレーンを設置してその穴をわざわざ塞いだんです。そしたらダム堤全体が全部が**になってしまって濁りの長期化は減りました。そういうことによってまた朴木ダムのある場所、周りに人家がかかるわけでもない、谷でもなんでもない本流、そこになんのために作るのか意味がわからない構造を作って大変で被害をもたらしたんですよ。こりゃ大変なことになったと思われたんでしょう。

わざわざ穴をもう塞いだんですよ。国交省今の私の言葉を聞いてどのように思われますか。わざわざ塞いだんですよ。

■国交省

我々もですね今知っていますのは平成 17 年の台風 14 号通過後にですね、調査をした時にまた上流の方で砂防ダムのある上の方ですね、たくさんの崩壊があって、その時にその崩壊の後にですね、たくさんの雨で流れて土砂が出てきたということで、それが結果としてこのようになっていると把握しておりますけれども、それがダム、ダムの下流側で溜まった土砂から出たというのは、当時現地を踏査して確認したところでは確認していません。

■国交省

私が言っているのは、濁りの発生原因じゃないんです。長期化したんです。そう長期化を招いた原因がどうなるかというのを言っています。

■

当時の調査してみますと大雨でダムと関係ないところで斜面が壊れて、そこに貯まった土砂と、その後に雨が降って、斜面に木がなくて裸になって状態のところから、それが濁りの原因になっていたというふうに当時は調査結果が出ております。

■生駒

それは間違いですね。間違いですね。どのように見ても現場を見れば、斜面崩壊しています。それが濁りの原因になっている、それも実際。でも私が言っているのは通常考えられないような長期に濁水が続いた。これを言っているんですよ。この長期化を招いたのが朴木ダムだと言う話をしてるんですよ。

■国交省

そもそも土砂とか濁りが出ている場所は砂防ダムからではないのに、その砂防ダムが長期

化しているということ自体は、私の理解には追いついていないんですけども。

■生駒

そりゃ理解はできんでしょうね。そりゃそうでしょ。現場なんか出たことも何もなかったでしょ。

■国交省

朴木は見たことはあります。

■生駒

いつの段階で見たんですか。

■生駒

私はまだ来て3年くらいか2年半くらいなので、その間に見ました。

■生駒

そう最近見ただけですね。分かりました。自分で分かっていると思いますか？

■国交省

現状は理解しております。

■生駒

現状じゃなくて当時は？

■国交省

当時は私は見ていませんが、当時の職員はいろんな職員が調査をして出した結論ですので、そのように理解しております。

■生駒

現地の人、現地の住民が言う言葉より、そういう自分たちに都合の悪くない資料、そっちを信じているということですね。どうですか。

■国交省

当時、客観的科学的な調査をしておりますので、きちんと調査されたものだとして理解しています。

■生駒

国交省自体の姿勢を私は非常に疑問を感じております。なぜわざわざあの穴を塞いだのでしょうか？こうじゃないだろうかっていう部分でいいからちょっとここでお答え聞きたいです。

■国交省

すみません、ちょっと当時のことは私もわかりませんのでこの場ではお答えできません。

■生駒

まだ砂防ダムのことはいろいろあるんですが、令和4年9月の台風の後も樫木砂防ダムの状況は知っておりますか？

■国交省

樫木砂防ダムの状況は確認しております。

■生駒

その時その台風の直後ですか？

■国交省

この3年2年ちょっとくらいの間です。

■生駒

直後の写真とかそういうのは見たことはございますか？

■国交省

ちょっと今パッとそれがいつだったのかというのを記憶しておりませんが、写真などは見させていただいております。

■生駒

ダム堤の上流下流すべて見られたんですか？その写真は。

■国交省

当時うちの職員がですね、ずっと歩いて回ったという話も聞いてますので、確認してます。

■生駒

確認してますか。その写真を見て確認しているということですよ？自分自身が行った時

に？

■国交省

その当時に調査を行った写真を私の方で見ているということです。

■生駒

ダム堤、縦木砂防堰堤はみんな橋になっていますよね。橋の上から上流、下流を撮った写真は見ましたか？

■国交省

写真はあります。

■生駒

ダム堤の上から上流を見て、どう思いましたか？

■国交省

あの、特に大きな濁りは発生していないということです。

■生駒

何を見られるのでしょうかね。あの時もですね 10メートルくらいは堆積して、それがどんどん削れて流れている。ダム堤の数十m下に小さな小川があり、それが結構澄んでいました。でも川辺川本流はもうダム堤は上からザーッと濁っている。これ写真なんかではっきりわかったはずですよ。今でも分かるはずですよ。

■国交省

今手元の写真を見ても濁っているとは見受けられません。

■生駒

別の質問をします。試験湛水時の水温予想結果で3つ、折れ線グラフがありますね。この真ん中の柳瀬地点のグラフ。これを見てどのような感想、どのように感じますか？

■国交省

このグラフから読み取れるのは、その同じページの上の方に書いておりますけれども、柳瀬地点におきましてはダム建設前に比べ、平均値が1から3度高くなるというふうに予測しております。ただし時間の経過とともに水温は低下するというふうになっております。

■生駒

そういうグラフで柳瀬地点のグラフ、そのようになっております。これがこうなった場合に魚類と言いますか、鮎についてはどのような影響があると考えますか？

■国交省

鮎の生態は、3月ぐらいに降下して、また3月ぐらいに遡上が始まるという中で、今水温の変化というのが10月の後半から1月ぐらいまでというふうになっていますので、直接的に、何ですかね、鮎がいないとはとは言わないですけども、まあその、鮎が一番活発な時期ではないところなので影響は少ないかなと思います。

■生駒

10月後半から活発になる時期ではないから影響は少ないと言われましたよね。この10月後半から翌年の1月の話ですが、これは鮎にとって非常に影響があるんです。なぜか分からないですよ。

■国交省

産卵とかに影響するということですか。

■生駒

ええそうですよ。産卵に影響が出る、そういうのを分かっているんですね、分かった上でこういうのを示す。どういうことでしょうか。まあこれはもう返答はいいです。このレポート全体ですけど、私濁りのこと生態のことを言うんですけど、洪水の抑止効果についても大きな疑問を持っております。今日はそれはもう私が言わなくても他の人と重なるから言いませんけど。

このレポートの中でですね、色々環境に対する対策に書いてあるんですけど、そういうレポートですから、その対策の一番最後の方は、この本当が「工夫をします」「検討します」。何ですかそれは？

あまりにも流域住民じゃなく、世の中を馬鹿にしていると私は思うんですよ。みんながそう思っているんですよ。それを覚えておいてください。よろしいですか。

ご意見ではありますけど、よく覚えていてください。みんなそれを思っているんですよ。

「工夫します」「検討します」。ただ言葉を濁して、順を追ってダムを作るためにいろんなことをやらないといけない。とりあえず帳面消しで、先に行こう先に行こうとする。そういう姿勢なんですよ。そういうふうには見えません。そんなことで良いのでしょうか。私は良くないと思いますよ。以上で終わります。